

化石館だより



コラム

陸貝の宝庫 金生山

古生代ペルム紀の良質な化石が多数産出することで知られている金生山ですが、陸上で生活する巻貝（陸貝）の多産地としても世に知られています。金生山の山頂にある明星輪寺の境内は、38種もの陸貝が棲む「陸貝の生息地」として岐阜県の天然記念物に指定されています。金生山には、「クロダアツクテムシオイ」や「オルサトギセル」という、金生山だけに生息する特産種が知られています。また、「ミカドギセル」や「ヤコビマイマイ」、「アメイロヒルゲンドルフマイマイ」など伊吹山系にしか生息しない固有種も多くいます。更に、金生山で確認されている陸貝の中には、レッドデータブックに記載されている絶滅危惧種もたくさんいます。岐阜県のレッドデータブックには、絶滅危惧Ⅰ類、Ⅱ類、準絶滅危惧および情報不足の4つのランクに分けて、合計33種の陸貝が掲載されていますが、なんとこの内の12種が金生山で確認されているのです。



陸貝は水中で生活している巻貝から進化してきました。陸貝は陸上で生活するため、空気呼吸の能力を身に付けるなど、陸上生活に適応した体になっていますが、乾燥には弱く湿気が多い環境を好みます。ですから樹木に覆われた山麓や寺社の森などは陸貝が生活するのに適した場所と考えられます。また、石灰質の殻を分泌する必要からか、石灰岩地にはより多くの種類が生息し、個体数も多く見られます。

金生山は標高が217mの小さな丘陵地で、東西に1km、南北に2kmの範囲に石灰岩が分布しています。金生山は江戸時代から採掘されている石灰岩の鉱山ですが、機械化が進む前は採掘場が極一部に限られており、山全体が樹木に覆われていました。また山麓には多くの神社や寺があり、その周りは樹木の茂る杜が囲んでいました。陸貝にとっては生活しやすい環境が整っていたのです。



左：ミカドギセル
右：シリボソギセル（オルサトギセル）

現在では機械化が進み、石灰岩の採掘場は山全体に広がっています。樹木に覆われていた山の表土はほとんどが削り取られてしまいました。また山麓の神社や寺の森も墓地の造成や住宅建設などで伐採が進んでいます。陸貝にとっては、生息場所が狭められる上に、乾燥化が進むことで大変厳しい環境となってしまいました。陸貝は移動能力が劣りますので、自力で逃げ出すことはできません。生活環境が悪くなれば絶滅するしかないのです。多種でしかも大量の陸貝が生活でき

ていたのは、そこに豊かな自然が存在していたからです。陸貝の生息状況は、その地の自然度を表すバロメーターと考えることもできます。



カドバリニッポンマイマイ

金生山と周辺域の陸貝について現在の生息状況を確認しておこうと、西濃陸産貝類研究会が調査を進めています。金生山の陸貝については、約50年前の大垣内宏による報告書をはじめ矢橋真、松本和芳などがその概要をまとめています。これまでに金生山域では64種の陸貝が確認されてきましたが、既に確認できなくなっている種もいくつか存在すると思われます。特に絶滅危惧種とされる種の現況が気になります。明星輪寺境内は、陸貝を餌とするヒメボタルの生息地としても天然記念物に指定されている場所です。

残された環境ができる限り長く維持されていくことを願ってやみません。

(文責：高木洋一)

お知らせ



化石講演会

とき 2月11日(祝)

午後1時30分より

場所 大垣市サイトピアセンター
学習館にて

講師 大路樹生 名古屋大学博物館教授(館長)

演題 ウミユリはどのような生物か？

～ 現生と化石ウミユリの研究から分かってきたこと ～

問い合わせ： 大垣市金生山化石館

電話 (0584) 71-0950 (ファックスも同じ)

Email kasekikan@city.ogaki.lg.jp